

きざりのこと

NO.69 月刊

昭和二十九年三月一日発行 (非売品)
 岡山県都窪郡吉備町東町一三五字地方電話四三七番
 吉備観虎協会

○金華山観音院 (その二)

数田基兵衛知也の子を正興といふ。父の嗣を継いで早島領主戸川氏に仕え、寛延二年禄高百石を食み望暦五年十二月十八日には家宰に進み要籍に列した。安永二年十月廿三日七十五歳で没し如水寺に葬られた。正興の室は岡山藩士津田左源六の子、梶坂左四郎の娘佐和といふ。左四郎は早島・箕島、帯江の沖干鴻を開墾した。享保七年に新田開墾のため三ヶ領主に差出した覚書の宛名に

一、戸川三左エ門様(早島領) 安晴(御内)

一、戸川五左エ門様(帯江領) 村由(御内)

平田藤大夫様
 納所彌右衛門様
 小野貞右衛門様
 一、花房水馬様 (箕島領) 取時(御内)

熊代宗右衛門様

とある。左四郎の父津田左源六は名を永忠といふ。初め重次郎、後ちに左源六に改めた。津田永忠は寛永十七年に父永貞の次子として岡山城下に生れた。津田氏は色々藩前藩士池田氏の家臣にして、十四歳の時永忠は池田光政に仕えて御小姓となり、余暇には漢書を繕いて学問を修め、長じて藩士の子弟を薫育した。また兎島湾埋立に従事し、その操陽三幡、津田、老政、津田、九幡の地域に亘って閑塾の事業を完成させた。寛文十年には藩命によりて閑塾を譲り和氣郡閑塾に閑居した。女余命はよくもなく、同四年二月五日病にみかり終六十八歳で没した。以上がその略歴にして左四郎との系統は詳かでない。ここに正興の子仲右衛門正利を継ぐ正利の嫡子正取が早死したので、次子の仲之助正業が家督を継いだ。初め名を正英といふ。この人が前項に述べた観音院に祖先の墓を建てたのである。正英は文政十年七月十日四十九歳で他界し、屍を如水寺に葬られた。

一、ここで数田氏の菩提所如水寺にフッてケレ述べ置きたい。如水寺は倉敷市豊州の早高の中間(旧名高沼)という處にある。戸川氏の定紋梅鉢の丸瓦を配した鐘楼内に塔あり、正面に本堂があり、左に連接して間口三六棹、奥行四二五棹、四注造りの観音堂があり、境内に数田氏累代廿四墓の墓がある。そのうち地上高き五五棹の三段の台石の上には五六種の自然石に「元禄十三庚辰年正月十八日 孝幸如水霊位」と刻んである。又、古寺を向基した人である。もと如水菴といつたが、この地の文在屋片山新助が田畑若干を寄進して建物を修葺し、フッて観音堂を建立した。大正十年の頃に浄土宗の僧暢瑠和尚が入山し、必く枕鉢して淨土を築め、新たに鐘樓門と梵鐘をつくり、寺格を得て庵を廢した。この梵鐘は本東亞戰爭に供出してしまつた。其の後昭和の震災に堂塔は傾き荒廢した。大正屋片山新助の子孫も御里を去つて渡米するに及んで後回に至らず、客殿のみはいたく朽壞して、たの取り毀れしまった。この台農地改革などのことがあつて寺地を失ひ、維持困難となつて無住の状態が続いた。現在では壬城の正覚寺の兼帯になつてゐる。

片山家累代の墓が數十基ある。その一つに「安永四未年六月二十三日 阿闍伽叶信女川入村高源氏の女レ「覚樹操尚格上 天明四歳十二月十日 片山新助」とある。高塚の女とあるは、川入に住する高塚始四郎の先祖の御である。

文久三年備中村継に「戸川橋次郎(安宅)御陣屋 早島 四百二十石 宍屋邸 高須賀村 庄屋 片山讓吉 金輝 大庄屋 片山廣祐(新助)とある。

この観音堂の本尊阿彌陀如来は推定高さ五〇種の立像木造と思われ、先年盗難にかかつて尊像の老背の部分と、台座のみが寂しく遺つてゐる。すべて堂塔は荒れ果てて昔日の觀はなかり。

正業の子正精になつて三男二女をもうけたが、男子は早岳に承子の正永が切方であつたので長女の浅に邑久郎令城村北島の社司、業合右仲次枝の二男を奉嗣した。正美といふ。明治二年九月領主戸川安宅系地を朝廷に返上したので一藩籍奉還(四臣は、ブルも帰農するに至つた。同九年十二月十二日六十九歳で没し、早島の子老寺に葬られた。正美には実子がなかつたので明治十一年一月廿一日に正永が数田家を相継しく岡山市西田町に移住し、大正五年三月十三日六十六歳で死去し、老寺に遺骸を葬つた。その子春魚正臣を継ぐ。当主正晴は東京に住してゐる。正晴の母は脚津郡野谷村菅野の坂野正道の二女繁子といひ、寔母となつて下樺川御内に住してゐる。

明治元年島村謙三郎作の「島川家陣屋之圖」によれば数田家の四屋敷は町筋から御陣屋へ入る石橋を渡つた空当りにある。明治三年早島の家侍帳に「代官後元禄三年より仕官、中壇用人上席、後より家老数田左平六正業、明治九年五月十二日、子嗣数田春魚」とある。

△ 敬田氏系譜 (一) 早島領主戸川氏家臣

雄波正遠 初め福右エ門後少将三郎
元和八年正月廿一日卒
雪岳正遠信士 觀音院に葬る
同族花房志摩守の臣高百石
雄波清四郎の妹寛永九年八月
七日卒 觀音院に葬る
涼山妙智信女

正長 初め久太郎後少将兵衛、油造業を営む
金葉山觀音院中興大檀那 万治三年十月廿五日卒
觀音院に葬る
室 花 蓬屋即箕島 山幸丸左エ門の女
花室妙信女 九十二才
梅 岡山の医師某に嫁く

加年 岡山の山松屋八郎右エ門に嫁く
正久 初め福右エ門を如化といふ。此
室三郎年庭腹に生る。
早島の高沼に移る高沼の如永庵
開基、元禄十三庚辰年正月十八日
卒六十五才

梅 備中川辺村塩尻孫助に嫁く
梅室妙讚信女 元禄三年三月廿日卒 如永庵に葬る
和 初め福右郎後少将兵衛、市左衛門。初め
早島領主戸川内藤助安九に仕へ新加高五十五石。雄
波姓を大和田姓に改む。後少元禄三年卒
君命により敷田姓に改む。豊州村新田を開設
す。享保七年三月十一日六十七才。如永庵に葬る

室 雪 肥後守細川綱中守の臣藤田市
左エ門の女寛文三年十二月廿二日
卒 觀音院に葬る
雪花妙現淨定尼
后室壽 子なし京都の人姓不詳 元禄
七年十月廿日卒 觀音院に葬る
壽山貞玉禪定尼
須那 巨久郡牛志村 治兵工に嫁く
傳兵工 倉敷村に住す 早卒
續計 早卒

室 繁 兎島即福田村和治治兵衛の二女室鷹元年
九月十九日六十九才。如永庵に葬る。
心蓮院體性貞理信女
傳 早卒
新助 早卒

市 天城村布施三益に嫁く。後少庭瀬藩主殿
倉甲斐守の臣山崎善助に再嫁す
友 岡山の九龍町讚岐屋忠左エ門に嫁く
正興 初め卯七郎後少久太郎、孝助と改む。又仲右エ門、老年に至りて遠炊、
室曆五年十一月十八日家老取。寛延二年九月廿六日高百石。享保八年早島村の内塩地に移る。同十年二月
廿九日再び高沼へ引越。安永二年十月廿三日七十五才。如永庵に葬る。大津院と貞志文為清士
室 佐和 岡山池田藩の臣津田左源太の長男権坂左四郎の女。延享三年寅年八月十四日三才。如永
庵に葬る。智老院に城妙融清女
妻 六才。後少右室となる。子なし。如永庵に葬る。玉曜妙暉信女
某女 四十五

縁 岡山池田藩池田大炊頭の家臣水野八郎左三門に嫁く
本 岡田藩伊東若狭守の臣明石五右エ門に嫁く
成雄 山崎と云ふ池田信濃守の家臣笠岡平右エ門の養嗣
福四郎 早卒
正利 初め市彌、左平、後少仲右エ門。安永三年三月廿九日家老取。知行石五五人扶持
寛政五年九月廿四日五十九才。如永庵に葬る。法雲院義俊智道居士
室 萬代 池田内蔵頭の臣、医師頭田中意徳に嫁く。文化二年九月十七日六十九才。如永庵に葬る。
法雲院松林素月大姉
織 池田伊豫守の臣一森孝三郎に嫁く。(一森氏の子孫は九幡村に、医師をなし、馬道に巧みて新田聖人
の名をたつた)

正職 久太郎寛政三年九月六日江戸勤音中十七才に卒。不詳。如永庵に葬る。輝雲院俊誉義道信士
正業 友五郎、右源治、仲之助、時太郎、初正英。知行父に同じ。觀音院に祖老の墓を建て、安永二年
六月八日卒。大政十一年七月十四日四十九才。如永庵に葬る。貴行院時太郎正業居士
室 智恵 丹波龜山城城主松平純伊守領地清口即上成村中原利介の女。大政六年七月八日三十七才。如永庵
に葬る。成行院何智恵貞子大姉
正回 吉十郎、十郎寛政十三年五月某日十七才高三十石。後少吉備津宮司藤井某に嫁す。教員と改む

正精 正孝、友之助、仲右エ門、福右エ門、知行父に同じ。此不詳。如永庵に葬る。嶺雲院教田福右エ門正精
居士 五十九才
室 梁 岡 讚岐守梅美に嫁く。弘化四年正月廿一日、三十九才。如永庵に葬る。彰光院心標美子大姉
后室 増 (益) 巨久郡上寺村神官業合右仲大枝の二女
后室 類 室屋即三須村藤田清之助の臣中島官兵衛の長女。文化十五年寅年三月廿九日生。安政三年
八月十四日三十九才。如永庵に葬る。環林院寂光行子大姉
千之五郎 大政十一年十二月廿二日。上成村中原和一郎に養嗣

正精 正孝、友之助、仲右エ門、福右エ門、知行父に同じ。此不詳。如永庵に葬る。嶺雲院教田福右エ門正精
居士 五十九才
室 梁 岡 讚岐守梅美に嫁く。弘化四年正月廿一日、三十九才。如永庵に葬る。彰光院心標美子大姉
后室 増 (益) 巨久郡上寺村神官業合右仲大枝の二女
后室 類 室屋即三須村藤田清之助の臣中島官兵衛の長女。文化十五年寅年三月廿九日生。安政三年
八月十四日三十九才。如永庵に葬る。環林院寂光行子大姉
千之五郎 大政十一年十二月廿二日。上成村中原和一郎に養嗣

正美 實は邑大野合城村北島社司業合右仲大枝の三男 文政二年十月廿六日生 文久三年五月十八日相繼、初め元
三助、左平太、慶長三年十月十五日徳川慶喜大政奉還、明治三年九月、君生戸川山女実采地返しに四座屏蒙
明治三年十月廿四日帯刀禁正、明治九年十月廿九日、千原寺に葬る。
卯太郎 文政十年六月廿九日早世、春老童子、如水庵に葬る。
正方 天保三年六月廿日生 嘉永二年四月十九日三才死、西雲院方岸正善信士、母は梁。
法(麻) 正美の望、母は梁、明治廿三年十月十日死、年石詳取、母は梁、荷沼院清香智子大姉
漁 天保十一年九月二日三才死、妙貞童子、如水庵に葬る。母は梁。
鑿之進 嘉永三年七月六日死、三才、望之進童子、如水庵に葬る。母は梁。
正永 全吉郎、正度、来介、嘉永四年十月八日生 明治二十七年六月三日早世、母は梁、西田町に
移り、上正五年三月十三日死、千原寺に葬る。母は梁、明治十一年一月廿一日相繼。
望 真知 臣父即豐行五明、近藤有年の長女、文政四年八月十五日生、昭和四年八月十日七十八才死
千原寺に葬る。

多年子 福出藩阿部氏の家臣河中学臣の長男行前の子、明治十三年二月十四日生
春魚 正臣、昭和廿二年十月廿六日六十六才死、法雲院清涌春水居士
室敏子 御津野野谷村菅野坂野正通の二女
子豆留 明治廿一年七月十三日早世、如水庵に葬る。正善覚信童子
初瀬 御津野野谷村匠師水河序平の嫁、
隆臣 岩泉吉敏即大内村匠師飯田徳甫の嫁、
早世

登喜子 早世
正晴 文正二年十月廿日生 東京に住す
美正 大正五年三月十日生
知正 大正八年六月廿八日生 陸軍中尉 昭和
二十一年四月十日大東亞戰爭に戦
死、大業院忠勤知東居士
恒子 早世
朋子 大正十一年九月八日生
△ 正美の里方の業合氏の先祖は邑久
即上寺山本業院の僧であつた女
寛文六年に遷俗して業合、有と名
を改め上寺山八幡宮の神賑を勤
め、家柄である。四代の信滿は漢
學者とシて名高く、その子大枝は
回典、和歌をき常津宮の神司藤井

高島に學び、學問教化に盡した人である。

業合の畧系 享保九年七月死 天明三年十月死 寛政十三年死 右仲大枝 綱太郎 正美
業合 奇 豊后 浅之進 主鼓 信滿 初曲 正美

△ 山内河内に建てるに、備中三十三の礼所、石碑に「ソノ、ソノの道順を示す」と
一、番川上郡川北村深耕寺 是より法林寺へ三里 半阿部村川渡し
二、番上房郡方瀬村法林寺 是より松蓮寺へ三里 里、正田川渡し、川瀬則榮
村、成松、老榮、矢野、坂本

三、番同郡松山 松蓮寺 是より常師院 土番同郡成羽村 源樹寺 是より宝鏡寺へ三里 中野、宇治、まじ坂、枝村
四、番同 常師院 是より頼久寺 三番同郡領家村 宝鏡寺 是より内福寺へ三里 佐原川渡し、法を木、川合
五、番同 頼久寺 是より徳園寺へ参 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り
地頭、下太竹、出高山

六、番同 古瀬 徳園寺 是より穴内山へ三里 有瀬、井戸野坂 十八神同穴内山神社 是より金敬寺へ五里 是より穴内山へ十八町打度り
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

七、番同 赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

八、番同 穴内山神社 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

九、番同 穴内山神社 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

十、番同 穴内山神社 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

十一、番同 穴内山神社 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里 是より足次山へ半里
寺、赤岩村 里、全津、八川、柳村 十三番同郡高山市日福寺 是より穴内山へ十八町打度り

- 十八神同空園 威徳寺是より自性院へ三里
- 十九番同郡神島 横島舟渡し 自性院是より神島社へ三里
- 十八神同南三浦 神島社是より神島社へ三里 神島社是より八ヶ所霊場あり
- 廿一番同郡玉島 五里 入江新田 西大島此所 御嶽大権現 中太島 東太島 安倉 住見 小原 此所より讚 岐路塩飽東外諸島見渡レ 観音堂是より円通寺へ三里 此所私法大師岩穴あり
- 廿二番同郡連島 円通寺是より宝島寺へ三里 吉浦川邊し 西三浦 宝島寺是より蓮花寺へ三里 北本 宇島 西原川邊 し 文事 二万石 八百有半

- 廿四番同郡岡田 森泉寺是より百射山へ三里半 此所下原川邊し中京 三和 中京川邊し 下原
- 十八神下道郡八代村 神々神社是より横田社へ三里
- 十八神同久代村 横田神社是より佐岐社へ三里
- 十八神同下茶村 上佐岐神社是より右置社へ三里
- 十八神同上茶村 石置神社是より般若庵へ半里 里 川邊 港村あり
- 廿五番同郡砂村 賀陽郡八日町村吉田総社あり此東に同府の跡 般若庵是より古即社へ三里 此所
- 十八神同横谷村 古即社是より野原社へ三里

- 十八神同即上高田村鼓之神社是より田上寺へ一里半 日近七井
- 廿六番同郡足守 田上寺 是より内満寺へ一里半 東阿曾 長田 長良
- 廿七番同郡溝手村内満寺是より内分寺へ三里 中林寺 緑山 妹尾 大即 田 跡あり
- 廿八番同郡上林村 内分寺 是より養生社へ三里 岡谷 水谷 西坂 子位在
- 十八神窪屋郡祐安村養生神社 是より観龍寺へ半里 里 浜村
- 廿九番同郡倉敷 観龍寺是より足高社へ半里
- 十八神同生津村足高神社是より観音寺へ一里 田島 跡
- 世番同郡中津江観音寺 是より観音院へ一里半
- 世一番 同郡撫川村観音院 是より宝泉寺へ半里
- 世二番 同郡大野村宝泉寺 是より普蓮寺へ半里 惣瓦 板倉
- 世三番 賀陽郡宮内村普蓮寺 有半山 斯大 妙成 観崎の古墳あり 吉野町
- 十八神同即宮内村 吉備津神社 道勝寺 妹尾 太郎 兼原の墓あり
- 文久元年 西 渡辺 兵 平 正 利 の 刊 行 による
- 三十三ヶ所霊場より由来を尋ねると、一十年の昔、花山天皇(第六十五代)御名は師負(一六八四)カハ五(再四十一歳)が賞知元年皇位を一時天皇に譲つて法皇となられ、深く佛法を信じ、紀州、濃州などの十一ヶ所に亘る観音菩薩を安置する三十三ヶ所の勝北た霊場を建て、この途中の三十三ヶ所は川上郡より始

まり賀陽郡へ吉備郡へに終る霊場は約八十里の距離である。創設は明分でないが傳へる所によると法皇の榮祭ともいわれる。その右天下の騷乱によつて霊場は改壞レて、永く埋滅の狀態であつたが、文政十三年の頃に、和泉の國の三雲若兵衛といふ人此のれを歎き發願して佛内に入り回跡を普く探索して霊場に建碑して彰顯したのちある。終りにする所の觀音菩薩は佛典にある普門品(五人)に、もし無量、計りきれない程多し、百万億の衆生は、この苦惱に遭つた時、この觀音菩薩を一心に信仰すれば、如何なる人でも皆解脱し得るものである。と説いてゐる。世人は誠を以つて信心を興して、この霊場を巡詣すれば、あらゆる罪障も消滅レ、衆生は隨喜の感恩に觸れることが出来る。觀音菩薩は大慈大悲の恵み深く、是れを量り知ることが出来ないのである。花山天皇の功徳は法界に及び、衆生をして普く御道を通せしめんとする御意圖に誠心偉大と謂ふべきである。

三十三ヶ所とは普門品の經典に、觀音菩薩がこの世界に汝をあらわれ結ひ、衆生を導き教元結ぶこと三十三に及び。といふに因るものである。

△ 霊地に唯波氏の墓石あり。

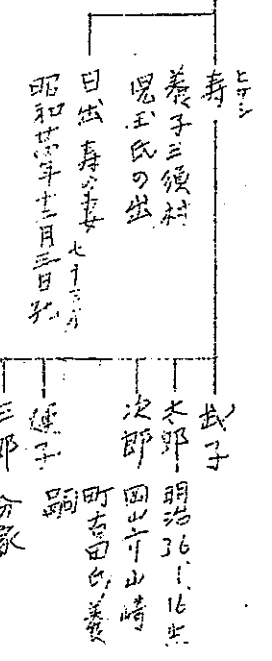
- 一 白蓮院安養寺道居士 天保五年(一八三四年)二月十一日歿 雄波紋吉 故久 (八十八歳)
- 二 心蓮院性巖智成水師 明治五年(一八七二年)三月七日歿 幸輝山 地村大 養氏女 恭登 (八十歳)
- 三 法断院陽覚自性居士 安政五年(一八二八年)九月十日歿 雄波紋吉 三郎 武宗 (四十六歳)
- 四 密音院寂心妙惠大姉 弘化元年(一八二四年)七月廿五日歿 聖本 山 地村大 養氏女 名絹 (三十三歳)
- 五 高台院春翠自量居士 安政六年(一八二九年)正月廿八日歿 波紋 三郎 武春 墓 (二十四歳)
- 六 慈然院好足徳徳居士 明治十九年(一八八四年)二月廿七日歿 (年八十) 雄波紋 三郎 高泉 本 即 松島村 三宅 佐 深 治 萬 行 三 男 (養 潤)
- 七 碓然院真探堂大姉 雄波紋 三郎 謙 高 明 号 松山 以 安 政 元 年 (一八二四年) 二月 四 日 生 幼 而 學 千 代 嗣 祐 憲 之 門 有 所 造 詩 明 治 十 年 為 小 学 校 教 師 二十 六 年 推 為 撫 川 村 長 後 遷 出 郡 會 議 員 改 付 為 町 也 再 推 為 町 長 日 露 歌 徒 依 功 叙 勲 七 等 賜 青 色 桐 葉 章 晚 年 辭 職 詠 風 韻 傍 海 子 傍 大 正 四 年 三 月 廿 五 日 以 疾 歿 享 年 六 十 又 二 紀 元 二 千 五 百 六 十 四 年 九 月 十 有 九 日 歿 (七十三歳) 雄波 幸

六、淨樂院宏謙義禪居士 昭和十二年十二月五日歿(六十八歳) 俗名雄波 壽

(勤儀院は名は喜文 昭和十一年七月廿八日七 十八歳にて死去 藤一郎の妻)

雄波氏男系
雄波紋吉—喜三郎—俊三郎—静三郎—藤一郎

藤一郎は、下撫川町初代の町長になった。子孫は、いま下撫川五十一番地に住し、主を雄波太郎といふ。



清水山松林清 (父の六) (第六十子) 続き

望地にある主なる墓標

一 瀧氏 (板倉氏家臣)

二 宗雲院養賢堂智貞大姉

三 慈積院義貫日芳居士

慈精院初室日照大姉

瀧氏の祖先は京都の人にして、三代板倉勝興に仕へて、給人高五十石を領した。瀧氏の祖先は、同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。

安之助の祖先は京都の人にして、三代板倉勝興に仕へて、給人高五十石を領した。瀧氏の祖先は、同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。同族に外縁結人並五人扶持あり、安之助とあるはその子孫である。

A 養子

幹五郎 岡田藩士某の男

安之助また安太 故あり、外縁結人取扱に下る。明治七年七月廿四日北

義三郎 養子 六十三才

室満位 安政五年生大正七年十月廿七日北

室 養子 五十六才

福次郎 御津郡今村中仙道大飼在太郎の三男

室 養子 五十六才

室 養子 五十六才

室 養子 五十六才

海野氏 (板倉氏家臣)

道運宗政居士

佐治氏 (板倉氏家臣)

仙道 沼居居士 文化五年辰年六月廿二日

明治二年侍帳に外縁御徒士小姓取扱四人扶持佐治典兼とあり。その先祖は、(おわり)ニの項末迄

山陽線庭瀬駅前

飲食物 一式

よこや旅館

吉備局電三一九番

鮮魚

魚進岸本商店

吉備町本町 吉備島6120 有線308